

本調査は東京、千葉、埼玉にある大学病院を含む6つの病院の産婦人科外来を訪れた新患患者を対象として行った。他の分担研究班において、10代女性を中心とした調査を行っているので、本調査では対象者を20-50歳の範囲に限定した。方法はあらかじめ用意した質問調査票を外来で配布し、記入後直ちに回収した。調査は平成6年12月に開始し、7年3月までに終了した。現時点で合計 1300票について集計した。

調査項目は別添資料にあるように、患者の属性（年齢、職業、出身地、年間所得）のほか、主訴、既往歴、妊娠歴、人工妊娠中絶時の医療施設選択理由および医療側の対応、日常の避妊・家族計画の実態および態度についてである。以下主な結果について報告する。

まず、調査対象者の年齢分布は25-29歳および30-34歳の年齢群がもっと多く、それぞれ25.5%、23.9%であった（表A）。

表A 調査対象者の年齢分布

年齢	人数	割合(%)
20-24	145	11.9
25-29	311	25.5
30-34	291	23.9
35-39	166	13.6
40-44	136	11.1
45-49	171	14.0
計	1220	100.0

世帯の年間所得は600-800万円が全体の45%を占めている。1000万円を超えるのは約20%であった（表B）。

表B 調査対象者の世帯年間所得

所得	人数	割合(%)
200万円>	37	3.2
-400万円	163	14.0
-600万円	296	25.4
-800万円	243	20.9
-1000万円	194	16.7
1000万円<	231	19.8
計	1164	100.0

表1 妊娠順位別妊娠数に対する中絶の割合(%)

	第1回	2	3	4	5<
妊娠数	754	527	260	119	62
中絶数	142	67	51	35	19
中絶割合	18.8%	12.7%	19.6%	29.4%	31.7%

第1回妊娠から第5回以上の妊娠までの人工妊娠中絶割合は第2回を底にJ字型分布を示している。第2回は10%台前半であり、第1、3回は20%に近い。第4回以降は30%前後である。その理由については表2に示す。

第1回の妊娠で中絶となった場合では「未婚」であったことを理由としているのは50%近くに達する。次いで「予定外の妊娠」、「経済的理由」が続いている。この3つの理由だけで全体の70%を占めている。第2回妊娠が中絶では上記の3理由のうち、「未婚」が30%台に低下したのと引き換えに、「病弱・高齢」、「胎児の異常」がそれぞれ10%以上の項目として上がってきている。第3,4回では「こどもはほらない」、「予定外の妊娠」がも

っとも重要なものになってきている。特に第4回では「経済的理由」、「病弱・高齢」がさらに重みを増している。

本調査の別項目で理想子ども数について回答を求めている。理想子ども数を2人と回答しているのは47%、3人が42%となっており、両者合せて約90%近くになる。このことは先に述べた第3,4回の妊娠で中絶となった場合では「子どもはらない」、「予定外の妊娠」がもっとも重要な理由として上がっている事実とよく符合するものである。

中絶の理由はさまざまにせよ、中絶を受ける前に誰に相談しているだろうか。結果の示すところでは「誰にも相談していない」はわずかで1.7%にすぎず、ほとんどは誰かと相談している。その中でも夫・パートナーに相談することがもっとも多く63%であり、次いで友人16%、親13%であった。もっとも夫・パートナーに相談するが63%という数字をどうとらえるか解釈上の問題であり、逆な言い方をすれば4割近くの男性は相手女性の中絶を知らないでいることにも注目したい。

中絶を決意した後、どのよな基準で医療施設を選択しただろうか？従来、中絶はきわめてプライベートのことであることから、希望者は住いからなるべく遠く人に知られない施設を選ぶと考えられがちであった。今回の調査結果は予想に反して、「地理的アクセスが便利である」ことを第1選択理由としたのがもっとも多く32%であり、次いで「かかりつけの医師である」、「人から聞いた」がそれぞれ20%であったことは興味深い。「人に知られない」、「中絶の理由を聞かない」、「技術がよい」、「費用が安い」を理由にしたのはごくわずかであった。

表2 妊娠順位別中絶理由

中絶理由	妊娠順位別中絶				
	第1回	2	3	4	5<
こどもがいない	0(0.0)	1(2.0)	10(24.4)	5(18.5)	2(8.7)
予定外妊娠	14(11.4)	4(8.2)	9(22.0)	6(22.2)	4(17.4)
未婚	60(48.8)	17(34.7)	3(7.3)	0(0.0)	4(17.4)
経済理由	13(10.6)	6(12.2)	4(9.8)	6(22.2)	3(13.0)
仕事	7(5.7)	5(10.2)	3(7.3)	1(3.7)	2(8.7)
知られたくない	4(3.3)	1(2.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)
パートナーの勧め	6(4.9)	1(2.0)	0(0.0)	1(3.7)	4(17.4)
病弱・高齢	4(3.3)	5(10.2)	4(9.8)	5(18.5)	2(8.7)
胎児異常	5(4.1)	8(16.3)	5(12.2)	0(0.0)	0(0.0)
その他	10(8.1)	11(2.0)	3(9.8)	3(11.1)	2(8.7)
計	123(100)	49(100)	41(100)	27(100)	23(100)

先の表2の基礎データから、273回の中絶のうち初回妊娠であったのが142例、すなわち52%を占めており、繰り返し中絶を予防するためにも医療施設におけるカウンセリング・アドバイスが重要であることはいうまでもない。これと関連するデータを次に示したい。

表3 医療施設における中絶後の相談・助言

	健康問題について	今後の避妊について
満足	72(29.1%)	51(21.3%)
不満	85(34.4%)	112(46.9%)
わからない	90(36.4%)	76(31.8%)
計	247(100%)	239(100%)

表に示したように、医療側の相談助言について健康問題では30%、避妊について20%しか「満足」と答えていない。特に避妊でははっきりと「不満」としているのは5割弱にのぼることは事実として重い。また、約3割のものは自分が医療側の助言などに対して満足であるのか不満であるのかわからないと答えており、少なからずの人に問題意識の希薄さがうかがえる。

しかしながら、避妊や健康の問題は中絶時に医療施設からはじめてそれに関する知識を得るという性格のものではなく、日頃からさまざまな情報源にアクセスし、積極的に知識を得る努力も必要であることはいうまでもない。中絶を経験していないものを含めて、調査対象者はどこから避妊に関する知識を得ているだろうか？

表4 避妊に関する情報源（回答者1661名）

医療施設	170(10.2%)	保健所・役所	63(3.8%)
雑誌・本	729(43.9%)	学校	239(14.3%)
夫（パートナー）	188(11.3%)	友人等	225(13.5%)
得たことがない	32(1.9%)	その他	15(0.9%)

表からわかるように、女性の避妊情報源は雑誌類がもっとも重要であり、過去の調査からも、わが国ではすでに定着した傾向であるといえる。しかしながら、雑誌類は必ずしも正確な情報を提供しているとは限らず、他の情報源を充実させていく必要がある。一方、

保健所等ではかつて新婚学級や母親学級でかなりの活動が行われたが、現在ではこの点に関してすでに大きな役割を持っていないことは明らかである。医療施設でも積極的に情報を提供しているとは言えず、前表と照らし合せればおおよそその実態がわかる。逆に以前ほとんど役割を果たしていなかった学校が、近年学校性教育が強調される中で大きなウェートを占めつつあることに注目したい。

表5 現在の避妊法（複数回答1294）

オギノ式	104(8.0%)	基礎体温法	198(15.3%)
性交中絶	43(3.3%)	コンドーム	841(65.0%)
ピル	38(2.9%)	IUD	24(1.9%)
ゼリー等	23(1.8%)	その他	23(1.8%)

調査対象者の現在行っている避妊法ではコンドームが圧倒的に多く65%に達しており、次いで基礎体温法やこれと組合わせたオギノ式が多い。ピル、IUD、不妊手術のような避妊効果が比較的確実な方法はきわめて少数であることがわかる。もっともピルについてはわが国では一部治験用を除いて避妊薬としては認可されておらず、使用しにくい状況にある。最近、低容量ピルの認可について議論されているので、本調査では女性のピルに対する態度、意見を聞いてみた。

まず、ピルを使いたいかどうか質問したところ、使いたいとしているのはわずか5.3%であり、80%は使いたくないと答え、残りの15.1%はわからないとしている。

先に述べたように、ピルは使いたくないと答えたものが80%にも達しているが、その理由について表6に示すように大半は副作用を心配しているためである。現在ピルとして入手できるのはホルモン容量が高いものである実情を考えれば当然の結果であろう。また、性病・エイズが予防できないを理由として挙げているのは4%弱に過ぎない。

表6 ピルを使いたくない理由(複数回答 1174)

毎日の服用がめんどろ	109(9.3%)
医師の診断後処方がめんどろ	75(6.4%)
副作用が心配	686(58.4%)
女性だけに負担	76(6.5%)
既存避妊法で十分	160(13.6%)
性病・エイズが予防できない	46(3.9%)
その他	22(2.0%)

避妊が失敗するかどうかは女性側のみに原因があるということではなく、男性側の態度も非常に影響することはいうまでもない。本調査では80%以上の女性は夫ないしパートナーは避妊に協力的であると答えており、5.8%はそうでないとしている。また、13.5%はわからないと答えている。協力的でないと答えた大半はその理由として夫やパートナーが避妊について面倒と感じているとしている。

以上、避妊についてまとめると、方法として男性側が用いるコンドームが圧倒的であり、女性側が用いるとすればオギノ式や基礎体温法であるにすぎない。多くの男性は避妊に協力的であるが、一部は避妊を面倒として協力的でないことがうかがえた。

最後に、人工妊娠中絶に関する基本的な考え方について質問した。結果は表7に示すとおりである。

表7 人工妊娠中絶について同意できる意見 (複数回答 1707)

妊娠初期なら理由をとわず中絶は認めてよい	178(10.4%)
避妊に失敗し時中絶を認めてよい	242(14.2%)
経済的理由で中絶を認めてよい	452(26.5%)
母体の健康を損うときのみ中絶を認めてよい	786(46.0%)
いかなる場合でも中絶を認めるべきでない	49(2.9%)

「健康問題」や「経済的理由」で中絶を認めるとしているのは72%以上に達しており、絶対認めないは3%以下であった。女性の年齢、中絶体験等によって意見は異なると思われるがさらに詳しい分析を行いたい。



女性健康調査

調査のお願い

このアンケート調査は、厚生省の委託により、国立公衆衛生院、大学、病院などの医師、研究者からなる研究班がおこなうもので、女性の生涯を通しての健康づくり（リプロダクティブヘルス）に役立つための基礎資料を得るために実施するものです。

20歳から50歳までの女性の方に無記名でお答えいただきます。ご記入の内容は国立公衆衛生院において統計的に処理され、調査結果は数字の形だけであつかわれますので、一人一人のご回答が他に漏れることは決してありません。どうかこの調査の趣旨を十分にご理解くださいます、ご協力いただけますよう、お願いいたします。

◎ご記入の方法　あてはまる番号に○をつけるものと、数字等を書き込むものがあります。このアンケート用紙の他に、一部の設問に対する回答の選択肢を記した別紙（ピンク色）がございます。不明の点は担当の医師におたずねください。

◎この調査に
ついての
お問い合わせ先

〒108 東京都港区白金台4-6-1
国立公衆衛生院 保健統計人口学部
電話 (03) 3441-7111 内線236 (佐藤)

問1. あなたの今回の受診等についておたずねします。

- 1) あなたの年齢 ___ 歳
 2) 今までに (今回を含め) 次のようなことで婦人科にかかったことがありますか。
 当てはまるものを選んで○をつけてください。(いくつでも)

- | | | | |
|-------------|----------|----------------|---------------|
| 1. 月経不順 | 2. 生理痛 | 3. おりもの | 4. 妊娠の確認 |
| 5. 妊産婦・産後健診 | 6. 切迫流産 | 7. 自然流産 (進行流産) | 8. 不育症 (習慣流産) |
| 9. 不妊症 | 10. 子宮筋腫 | 11. 子宮内膜症 | 12. 性病 |
| 13. 更年期障害 | 14. 卵巣腫瘍 | 15. ガン検診 | 16. その他 () |

問2. あなたのこれまでの妊娠・出産などの経験についておたずねします。

妊娠経験のない方は問4. (次ページ) へ進んでください。

これまでのすべての妊娠・出産についておたずねします。次の表で、当てはまる番号に○をつけ、___にはそのときのあなたの年齢を記入してください。

また人工妊娠中絶の理由については、別紙のAから当てはまるものを選んで番号をご記入ください。

	(1)妊娠はどう なりましたか	(2)そのときの あなたの年齢	(3)子供の 男女別		(1)妊娠はどう なりましたか	(2)そのときの あなたの年齢	(3)子供の 男女別
1 回目 の 妊 娠	1. 出生 2. 死・流産 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	→ ___歳	(1. 男 2. 女) 妊娠 () 週 理由 ()	2 回目 の 妊 娠	1. 出生 2. 死・流産 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	→ ___歳	(1. 男 2. 女) 妊娠 () 週 理由 ()
	1回目の妊娠の前に避妊をしていましたか (1. していた 2. していなかった)				2回目の妊娠の前に避妊をしていましたか (1. していた 2. していなかった)		
3 回目 の 妊 娠	1. 出生 2. 死・流産 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	→ ___歳	(1. 男 2. 女) 妊娠 () 週 理由 ()	4 回目 の 妊 娠	1. 出生 2. 死・流産 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	→ ___歳	(1. 男 2. 女) 妊娠 () 週 理由 ()
	3回目の妊娠の前に避妊をしていましたか (1. していた 2. していなかった)				4回目の妊娠の前に避妊をしていましたか (1. していた 2. していなかった)		
5 回目 の 妊 娠	1. 出生 2. 死・流産 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	→ ___歳	(1. 男 2. 女) 妊娠 () 週 理由 ()	6 回目 の 妊 娠	1. 出生 2. 死・流産 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	→ ___歳	(1. 男 2. 女) 妊娠 () 週 理由 ()
	5回目の妊娠の前に避妊をしていましたか (1. していた 2. していなかった)				6回目の妊娠の前に避妊をしていましたか (1. していた 2. していなかった)		

7 回 目 の 妊 娠	1. 出生 → ____歳 (1.男 2.女)	8 回 目 の 妊 娠	1. 出生 → ____歳 (1.男 2.女)
	2. 死・流産 → ____歳 妊娠()週		2. 死・流産 → ____歳 妊娠()週
	3. 人工妊娠中絶 → ____歳 理由()		3. 人工妊娠中絶 → ____歳 理由()
	4. 現在妊娠中 7回目の妊娠の前に避妊をしていましたか (1.していた 2.していなかった)		4. 現在妊娠中 8回目の妊娠の前に避妊をしていましたか (1.していた 2.していなかった)

9回以上妊娠された方は、以下に全部の妊娠などの回数をご記入ください。

- 妊娠は全部で ____回 (現在妊娠中も含む)
- 出生は全部で ____人
- そのうち現在生存は ____人
- 死・流産は全部で ____回
- 人工妊娠中絶は全部で ____回

問3. これまでに人工妊娠中絶をなされた方におたずねします。
経験のない方は問4.へ進んでください。

1) 誰に相談されましたか。

以下から選んで○をつけてください。(いくつでも)

1. 夫 (パートナー) 2. 親 3. その他の親族 4. 友人
5. 誰にも相談しなかった 6. その他 ()

2) 中絶施設 (病院・医院) をお決めになった理由は? 以下から選んで○をつけてください。(いくつでも)

1. 地理的に便利 2. 人に知られないですむ
3. 技術がいい 4. 人に聞いた
5. 中絶の理由をきかない 6. 前にかかったことがある病院・医院だから
7. 費用が安い 8. 医師、助産婦に紹介された
9. 広告を見て決めた 10. その他 ()

3) 中絶後、その施設 (病院・医院) で何かアドバイスしてもらいましたか。

a. 以後のあなたの身体の健康のことについて、満足・納得できる説明を受けましたか。

(1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない) (1つだけ○をつけてください)

b. 以後の避妊について、満足・納得できる説明を受けましたか。

(1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない) (1つだけ○をつけてください)

問4. 避妊、家族計画などについておたずねします。

1) あなたは避妊をしたことがありますか。(あなたまたは夫が不妊手術を受けている方は「現在実行している」人に含む) 以下から選んで○をつけてください。

1. 現在実行している
2. 前に実行していたが、今はやめている
3. 一度も実行したことがない

→ 1. または 2. を選んだ方におたずねします。(次のページへ)

現在避妊に使っている（前に使った）方法はおもにどれでしょうか。

以下から選んで○をつけてください。（2つまで）

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 1. オギノ式 | 2. 基礎体温法 |
| 3. 性交中絶法 | 4. コンドーム |
| 5. 洗浄法 | 6. 錠剤、ゼリー、フィルム |
| 7. ペッサリー | 8. IUD（リング） |
| 9. ピル（飲む避妊薬） | 10. 不妊手術（妻） |
| 11. 不妊手術（夫） | 12. その他（ ） |

2) 夫（パートナー）の避妊に対する態度はいかがですか。

a. 夫（パートナー）と避妊について話し合いますか？

(1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない) (1つだけ○をつけてください)

b. 夫（パートナー）は避妊に協力的ですか？

(1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない) (1つだけ○をつけてください)

→ 2. または 3. を選んだ方におたずねします。

夫（パートナー）が避妊に協力的でない理由は何だと思えますか。

以下から選んで○をつけてください。（いくつでも）

1. 避妊器具をつかうのがめんどうくさい
2. 避妊に関心がない
3. 子供がほしい
4. その他（ ）

3) 過去1ヵ月の性生活についておたずねします。以下から選んで○をつけてください。（1つだけ）

0（なし） 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12回, 13回以上

4) あなたは避妊についての知識をおもにどこから得ましたか。

以下から選んで○をつけてください。（2つまで）

1. 病・産院、医院など医療施設
2. 保健所・役所など保健施設（新婚学級、母親学級など含む）
3. 雑誌、本
4. 学校
5. 夫（パートナー）
6. 親、姉妹、友人など身近な人
7. だれからも得なかった
8. その他（ ）

5) あなたはピル（飲む避妊薬）を使いたいと思えますか。以下から選んで○をつけてください。（一つだけ）

1. 使いたい 2. 使いたくない 3. わからない

→ 2. または 3. を選んだ方におたずねします。

ピル（飲む避妊薬）を使いたいと思わない理由は何ですか。

以下から選んで○をつけてください。（2つ以内）

1. 毎日飲むのがめんどう
2. 医師の診断を受けてから処方してもらうのがめんどう
3. 副作用が心配
4. 女性だけに負担がかかる
5. すでにある避妊法で十分
6. 性病（エイズ）が予防できない
7. その他（ ）

- 6) 人工妊娠中絶について次の意見のうち、同意できると思われるものに○をつけてください。
(いくつでも)
1. 妊娠初期なら理由を問わず中絶は認められてよい
 2. 避妊に失敗したとき中絶を受けるのは認められてよい
 3. 経済的理由で中絶を受けるのは認められてよい
 4. 母体の健康に危険が迫っている場合のみ、中絶は認められてよい
 5. どんな場合も中絶は認められるべきでない

- 7) あなたにとって理想的な子供の数は何人ですか
以下から選んで○をつけてください。(一つだけ)
- | | |
|------------|--------------|
| 0. 子供はいらない | 1. 1人 |
| 2. 2人 | 3. 3人 |
| 4. 4人 | 5. 5人以上 (人) |

問5. 最後にあなたやご家族のことについておたずねします。

- 1) あなたの現在の婚姻関係は？ (以下、結婚には内縁を含みます)
 1. 未婚
 2. 現在結婚している →夫の年齢は ____ 歳
 3. 結婚ののち離別した
 4. 結婚ののち死別した
- 2) あなたの初婚年齢は？ ____ 歳
- 3) あなたが小学校卒業までに育ったところは、おもに次のどちらですか。
 1. 市街地
 2. 農山村・漁村
- 4) あなたの職業をおたずねします。(現在結婚されている方は、夫の職業もおたずねします)
 別紙の B からもっとも近いもの一つを選んで番号をご記入ください。
 →あなたの職業 ()
 →夫の職業 ()
- 5) あなたが最後に卒業した(または在学中の)学校はどれですか。(現在結婚されている方は、夫についてもお答えください) 別紙の C から選んで番号をご記入ください。
 →あなた ()
 →夫 ()
- 6) あなたの世帯の1年間の税込み年収はいくらぐらいですか。もっとも近いもの一つを選んで○をつけてください。なお、独身で親と同居されている場合、家計を別にされておれば、別の世帯とお考えください。

1. 200万円未満	2. 200万円以上～ 400万円未満
3. 400万円以上～ 600万円未満	4. 600万円以上～ 800万円未満
5. 800万円以上～1,000万円未満	6. 1,000万円以上

ご協力ありがとうございました。

別紙

A. 人工妊娠中絶の理由

次から選んで問2の()内にご記入ください。(いくつでも)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. もう子供はいらない | 2. 時期が予定外(出産を延期したい) |
| 3. 結婚していない | 4. 経済的に苦しい |
| 5. 住宅事情 | 6. 仕事(学業)が続けられない |
| 7. 他人に妊娠を知られたくない | 8. 夫(パートナー)のすすめ |
| 9. 病弱 健康に不安 | 10. 高齢出産を避けたい |
| 11. 胎児に異常のおそれ | 12. その他() |

B. 職業

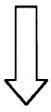
次から選んで問5の4)の()内にご記入ください。(一つだけ)

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 主として農林漁業 | 2. 農林漁業以外の自営業 |
| 3. 勤め人(専門職、管理職) | 4. 勤め人(事務、販売、サービスなどの仕事) |
| 5. 勤め人(工場などの現場労働) | 6. パート、臨時雇い |
| 7. 無職 家事(専業主婦を含む) | 8. 学生 |
| 9. その他() | |

C. 最後に卒業した(または在学中の)学校

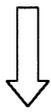
次から選んで問5の5)の()内にご記入ください。(一つだけ)

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 中学校 | 2. 高校 |
| 3. 専修学校(高卒後) | 4. 短大 高専 |
| 5. 大学・大学院 | 6. その他() |



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



本調査は東京、千葉、埼玉にある大学病院を含む6つの病院の産婦人科外来を訪れた新患者を対象として行った。他の分担研究班において、10代女性を中心とした調査を行っているため、本調査では対象者を20-50歳の範囲に限定した。方法はあらかじめ用意した質問調査票を外来で配布し、記入後直ちに回収した。調査は平成6年12月に開始し、7年3月までに終了した。現時点で合計1300票について集計した。